

病害虫発生予報 第5号

(向こう1か月間の発生予報)

I 総括表

作物名	病害虫名	地 域	発生量	発生時期	摘 要
水稲	穂いもち	全域	やや多	並	
	紋枯病	全域	やや多	並	
	白葉枯病	全域	やや少	並	
	ツマグロヨコバイ	全域	並	並	
	セジロウンカ	全域	並	並	
	カメムシ類(斑点米)	全域	多	並	
	イモジセリ(イモムシ)	全域	並	並	
	イナゴ	全域	並	並	
大豆	紫斑病	全域	並	並	
	子実害虫類	全域	やや多	並	
りんご	褐斑病	全域	並	並	
	黒星病	全域	並	並	
	斑点落葉病	全域	並	並	
	輪紋病	全域	並	並	
	炭疽病	全域	並	並	
	すす点病・すす斑病	全域	並	並	
	キンモンホソガ	全域	並	並	
	スモモヒメシンクイ	全域	並～やや多	並	
	ナシヒメシンクイ	全域	並	並	
	モモシンクイガ	全域	並～やや多	並	
	リンゴハダニ	全域	並～やや多	並	
	ナミハダニ	全域	並～やや多	並	
なし	うどんこ病	全域	並	並	
	黒星病	全域	やや少	並	
	黒斑病	全域	並	並	

なし	輪紋病	全域	並	並	
	枝幹性病害(胴枯・枝枯病)	全域	並	並	
	カメムシ類	全域	やや多	並	
	シンクイムシ類	全域	並～やや多	並	
	ハダニ類	全域	やや多	並	
	リンゴコカクモンハマキ	全域	並	並	
もも	せん孔細菌病	全域	並	並	
	灰星病	全域	並	並	
	ハダニ類	全域	並～やや多	並	
	シンクイムシ類(モモシンクイガ)	全域	並～やや多	並	
	モモハモグリガ	全域	並	並	
	リンゴコカクモンハマキ	全域	並	並	
ぶどう	べと病	全域	並	並	
	さび病	全域	並	並	
	チャノキイロアザミウマ	全域	並	並	
かき	うどんこ病	全域	並	並	
	炭疽病	全域	並	並	
	円星落葉病	全域	やや少	並	
	カキクダアザミウマ	全域	並	並	
	カキノヘタムシガ	全域	並	並	
	ハマキムシ類	全域	並	並	
	フジコナカイガラムシ	全域	やや少	並	
トマト	疫病	全域	並	並	
	灰色かび病	全域	並	並	
	輪紋病	全域	並	並	
きゅうり	斑点細菌病	全域	並	並	
	べと病	全域	並	並	
	うどんこ病	全域	並	並	
	炭疽病	全域	並	並	
	褐斑病	全域	並	並	
果菜類 (きゅうり、 トマト等)	ウイルス性病害	全域	並～やや多	並	
	アザミウマ類	全域	やや多	並	
	アブラムシ類	全域	並～やや多	並	

アフリカ科 野菜	黒斑細菌病	全域	並	並
	軟腐病	全域	並	並
	黒腐病	全域	並～やや多	並
	コナガ	全域	並	並
はくさい	ピシウム腐敗病	全域	並	並
	べと病	全域	並	並
レタス	すそ枯病	全域	並～やや多	並
	べと病・菌核病・灰色かび病	全域	やや少ない	並
	斑点細菌病	全域	並	並
	軟腐病・腐敗病	全域	並	並
アスパラガス	茎枯病	全域	並～やや多	並
	斑点病	全域	並	並
ねぎ	黒斑病・葉枯病	全域	並～やや多	並
	べと病	全域	並	並
野菜・花き 共通	オオタバコガ	全域	やや多	並
	ヨトウガ類	全域	並	並
	ハモグリバエ類	全域	並～やや多	並
	アブラムシ類	全域	並～やや多	並
	アザミウマ類	全域	やや多	並
	ハダニ類	全域	やや多	並

※発生時期の空欄は、発生時期の関係ないものや常時発生ものを示す

※地域指定がある場合は、その地域以外は、発生量、発生時期とも「並」を示す

Ⅱ 向こう1か月の天候の見通し及び予報の根拠にかかる気象要因

1 向こう1か月の天候の見通し（気象庁 令和7年8月14日発表）

○関東甲信地方【8月16日～9月15日】

太平洋高気圧に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高い見込み。
特に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込み。

○関東甲信地方の向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の見通し

区 分	見通し	予想される出現確率（％）		
		低い（少ない）	平年並	高い（多い）
平均気温	高い	10	10	80
降 水 量	少ない	50	30	20
日照時間	多い	10	30	60

2 予報の根拠にかかる気象要因

（＋）は発生を増加させる要因、（－）は発生を減少させる要因を示す

Ⅲ 水稻

1 穂いもち

（1）予報の内容 発生量：やや多い 発生時期：平年並

（2）予報の根拠

①8月上旬の巡回調査では、葉いもちの発生地点率は平年と比べ高く、また一部のほ場で上位葉への進展がみられた。

②BLASTAMによる葉いもち感染好適条件の出現率は、穂いもち予防防除前の7月第1半旬から第2半旬間において、南信地域では平年と比べ166.7%、中信地域では177.2%といずれも高い値を示した。

（3）防除上の留意点

①上位葉に病斑が目立つほ場では、穂ばらみ期と出穂期に穂いもち防除を徹底する。

②穂、節いもちの多発生が予想される場合には、さらに出穂5日後と10日後に2回防除する。

2 紋枯病

（1）予報の内容 発生量：やや多い 発生時期：平年並

（2）予報の根拠

①8月上旬の巡回調査では、常発地域の一部のほ場で7月下旬以降に発病株の増加がみられた。

②気象要因（＋）

向こう1か月の気象予報では、気温は高いと予想されている。

（3）防除上の留意点

①病勢が上位葉鞘へ進展し始める出穂前2週間～出穂期に防除する。

②発病が多い場合には、さらに7～10日後に防除する。

3 白葉枯病

（1）予報の内容 発生量：やや少ない 発生時期：平年並

（2）予報の根拠

①8月上旬などの巡回調査では、発生は確認されていない。

②本年は、台風等による浸冠水が比較的少ない。

- (3) 防除上の留意点
台風等による浸冠水は発生を助長するので留意する。

4 ツマグロヨコバイ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
8月上旬の巡回調査（ネット20回振）では、発生地点率は平年と比べ高かった。平均捕獲頭数は平年と比べ少なかった。
(3) 防除上の留意点
①液剤は、株元にも十分散布する。
②薬剤抵抗性の発達を遅らせるため、同一系薬剤の連用を避ける。

5 セジロウンカ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
8月上旬の巡回調査（ネット20回振）では、発生地点率はほぼ平年並であった。平均捕獲頭数は平年と比べ少なかった。
(3) 防除上の留意点
①液剤は、株元にも十分散布する。
②今後の予察情報に注意する。

6 カメムシ類（斑点米）

- (1) 予報の内容 発生量：**多い** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
①8月上旬の巡回調査（ネット20回振）では、発生地点率は平年と比べ高く、平均捕獲頭数は多かった。
②予察灯による誘殺消長では、主要種であるアカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメの誘殺数が平年と比べ多く、特にアカスジカスミカメの誘殺数が顕著であった。
③気象要因（+）
向こう1か月の気象予報では、気温は高いと予想されており、活動は活発になると推測される。
(3) 防除上の留意点
①茎葉散布剤の防除適期は出穂10日後である。カスミカメ類では防除時期が早すぎると効果が劣る場合があるので、防除時期に留意する。
②粒剤による防除は、薬剤により防除時期が異なり、エチプロール粒剤は出穂期に、ジノテフラン粒剤、クロチアニジン粒剤は出穂7日後に散布する。湛水状態で均一に散布し、散布後少なくとも7日間は止水とし、湛水状態を保つ。
③常習発生地など発生が多い地域（ほ場）では、さらに7～10日後に追加の茎葉散布を行う。
④粉剤は、ドリフトしやすいのでミツバチ等への危被害に注意する。

7 イチモンジセセリ（イネツトムシ）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
黄色粘着トラップを用いた第1世代成虫誘殺頭数及び誘殺最盛期は、平年並であった。

8 イナゴ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
8月上旬の巡回調査（ネット20回振）では、発生地点率は平年と比べ低かった。平均捕獲頭数は平年と比べ少なかった。
(3) 防除上の留意点
多発ほ場では、早期に防除を実施する。

IV 大 豆

1 紫斑病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
前年の発生は、平年並であったため、越冬量は平年並と推測される。
(3) 防除上の留意点
①開花終期～粒肥大初期に、莢部へ薬剤が十分かかるように散布する。
②チオファネートメチル剤の耐性菌が確認されている地域では、同一系統の薬剤の使用を避ける。

2 子実害虫類（マシクガ・シイロゾマダラメイガ・カメムシ類・ダマシヤタマバエ）

- (1) 予報の内容 発生量：**やや多い** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
①前年の発生は、平年と比べ多かったため、越冬量は平年と比べ多いと推測される。
②生育期間中の気温が高かったため、発生量の増加や発生時期の長期化が予想される。
③気象要因（+）
向こう1か月の気象予報では、気温は高いと予想されており、活動は活発になると推測される。
(3) 防除上の留意点
①カメムシ類を除いて、連作ほ場で発生が多くなる傾向がある。
②防除適期は、幼莢期～子実肥大期（例年は8月中旬～9月上旬頃）である。薬剤は莢に十分かかるよう丁寧に散布し、発生の多い場合は7～10日間隔で2～3回散布する。
③山際や法面の大きい傾斜地では、カメムシ類の発生が多い傾向にある。また、カメムシ類の被害は、稔実中後期にも発生するため注意する。

V りんご

1 褐斑病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
直近の巡回調査では、中信地域、北信地域の一部のほ場で発生がみられた。
(3) 防除上の留意点
「長野県農作物病害虫・雑草防除基準」（以下「県防除基準」という。）を参照し、定期的に防除する。

2 黒星病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
直近の巡回調査では、葉への新たな発生はみられなかったが、一部ほ場で発病果の残存がみられた。
(3) 防除上の留意点
①秋季に病勢の伸展がみられるので、「県防除基準」参照し、定期的に防除する。
②薬剤耐性菌のまん延防止のため、殺菌剤の選択においては農業農村支援センター、JAなどの指導を受けること。

3 斑点落葉病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
直近の巡回調査では、東信地域、中信地域、北信地域の発病葉率は平年と比べ低かったが、発生がみられた。
(3) 防除上の留意点
「県防除基準」を参照し、定期的に防除する。

4 輪紋病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
越冬伝染源量は平年並と推測される。
(3) 防除上の留意点
「県防除基準」を参照し、定期的に防除する。

5 炭疽病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
前年の発生が平年並であったため、越冬伝染源量は平年並と推測される。
(3) 防除上の留意点
①「県防除基準」を参照し、薬液が十分かかるように定期的に防除する。
②突発的な降雨が続くと予想される場合は、散布間隔を10日程度に縮める。

6 すず点病・すず斑病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
伝染源量は平年並と推測される。
(3) 防除上の留意点
①「県防除基準」を参照し、定期的に防除する。
②中晩生種では8月中旬～9月上旬頃まで、降雨の多い場合は9月中下旬頃まで防除する。ただし、薬剤の選択にあたっては、品種の収穫期と薬剤の使用時期に注意する。

7 キンモンホソガ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
①直近の巡回調査では、全般的に被害葉率は平年並であった。
②須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップによる第2世代成虫の誘殺頭数は、ほぼ平年並であった。
③8～9月の第3、4世代成虫の発生は、前世代成虫より増加する傾向にある。
(3) 防除上の留意点
「県防除基準」を参照し、防除する。

8 スモモヒメシクイ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップによる第2世代成虫の誘殺頭数は、平年並であったが、場外のすもも園設置のフェロモントラップの誘殺頭数は平年と比べ多かったため、第3～4世代幼虫による被害の増加が予想される。
(3) 防除上の留意点
①第3世代成虫は、平年は9月上中旬から発生するので、重要防除時期になる。
②「県防除基準」を参照し、シクイムシ類に登録のある薬剤を選択し、丁寧に散布する。
③多発園では、散布間隔を10日間にして防除する。

9 ナシヒメシクイ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
①直近の巡回調査では、果実への寄生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。
②須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年並であった。
(3) 防除上の留意点
「県防除基準」を参照し、防除する。

10 モモシンクイガ

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多い 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年と比べやや多かった。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、定期的に防除する。

②気温が高めに推移すると、卵期間が短くなるため、散布間隔（10～14 日）を守り防除する。

③被害果は土中に埋めるなどして、適切に処理する。

11 リンゴハダニ

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多い 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①気象要因（＋）

向こう 1 か月の気象予報では、気温は高いと予想されており、活動は活発になると推測される。

②直近の巡回調査では、県下全域で寄生がみられ、一部のほ場では寄生密度が増加した。

(3) 防除上の留意点

①園地の発生状況に注意し、密度が増加する前に「県防除基準」を参照し、殺ダニ剤を散布する。

②殺ダニ剤の散布前に徒長枝切りや枝吊りを行い、手散布や S S の縦横走行散布等によって、樹冠内部まで薬液が十分にかかるようにする。

③多発が予想される場合や発生が多い場合は、基準内で散布量を増やし、散布間隔を短くする。

12 ナミハダニ

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多い 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①気象要因（＋）

向こう 1 か月の気象予報では、気温は高いと予想されており、活動は活発になると推測される。

②直近の巡回調査では、県下全域で寄生がみられ、一部のほ場では寄生密度が増加した。

(3) 防除上の留意点

①園地の発生状況に注意し、密度が増加する前に「県防除基準」を参照し、殺ダニ剤を散布する。

②殺ダニ剤の散布前に徒長枝切りや枝吊りを行い、手散布や S S の縦横走行散布等により、樹冠内部まで薬液が十分にかかるようにする。

③多発が予想される場合や発生が多い場合は、基準内で散布量を増やし、散布間隔を短くする。

13 リンゴコカクモンハマキ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①越冬世代成虫の発生量及び発生時期は、全般的に平年並であった。

②直近の巡回調査では、幼虫による新梢被害はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

③須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップによる調査では、7 月後半に少数誘殺された。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、防除する。

②平地での第 2 世代幼虫の防除適期は 8 月上旬頃である。

VI なし

1 うどんこ病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

①常発園等被害のあった園では、収穫後に薬剤防除を行う。

②多発により落葉し、次年度の花芽形成に影響するので注意する。

2 黒星病

(1) 予報の内容 発生量：やや少ない 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①直近の巡回調査では、発生はみられなかった。

②南信農業試験場での果実の発病率は、平年と比べ低かった。

(3) 防除上の留意点

「県防除基準」を参照し、防除する。

3 黒斑病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

「県防除基準」を参照し、防除する。

4 輪紋病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、間隔をあけすぎないように定期的に防除する。
- ②無袋栽培の西洋なしは本病にかかりやすいので、今後の降雨の状況に注意する。

5 枝幹性病害（胴枯病・枝枯病）

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

「県防除基準」を参照し、薬剤が幹までよくかかるように防除する。

6 カメムシ類

(1) 予報の内容 発生量：**やや多い** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、クサギカメムシは平年並であり、チャバネアオカメムシは平年と比べ多かった。

②気象要因（＋）

向こう1か月の気象予報では、気温は高いと予想されており、活動は活発になると推測される。

(3) 防除上の留意点

①園地内の飛来状況を確認する。特に山際で毎年飛来がある園地では、気温の上昇につれて多くなる傾向がある。

②防除間隔をあけすぎないように定期的に防除する。なお、防除前に使用する薬剤の対象害虫を確認し、カメムシ類に登録のある薬剤を使用する。有機リン剤は使用時期（収穫前日数）に注意する。ネオニコチノイド剤は吸汁阻害効果がある。

③定期的に園内を観察し、カメムシ類を発見した場合はカメムシ類に登録のある薬剤を速やかに散布する。

④合成ピレスロイド剤は、指定地域以外では使用しない。

7 シンクイムシ類

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①高森町（南信農業試験場）のナシヒメシンクイのフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年と比べやや多かった。

②気象要因（＋）

向こう1か月の気象予報では、気温は高いと予想されており、活動は活発になると推測される。

(3) 防除上の留意点

①多発園や産卵のピーク時は、間隔をあけすぎないように「県防除基準」を参照し、防除する。

②今後、気温が高く推移した場合、晩生種で被害が多くなる傾向があるので、最終防除時期が早くなりすぎないように注意するとともに、必要に応じて追加防除を実施する。

8 ハダニ類

(1) 予報の内容 発生量：**やや多い** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①直近の巡回調査では、中信地域で発生がみられた。

②気象要因（＋）

向こう1か月の気象予報では、向こう1か月の気象予報では、気温は高いと予想されており、また、降水量が少なかったことから活動は活発になると推測される。

(3) 防除上の留意点

①園内の発生状況に注意し、密度が増える前に「県防除基準」を参照し、防除する。

②散布むらが生じないように丁寧に散布する。

9 リンゴコカクモンハマキ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、寄生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並であった。

(3) 防除上の留意点

寄生が多い場合は、「県防除基準」を参照し、防除する。

Ⅶ も も

1 せん孔細菌病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、発生量は平年並であり、葉への発生がみられたが果実への感染はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

①果実や枝葉への感染は見つけ次第、必ず取り除き、埋没処分等を行う。

②「県防除基準」を参照し、収穫後も防除する。

③台風が襲来すると感染量が増えるので、今後の気象情報にも注意する。

2 灰星病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、東信地域の一部で発生がみられたが、発生樹は限定されていた。

(3) 防除上の留意点

- ①発病果は、見つけ次第除去して土中に埋めるなど適正に処理する。
- ②「県防除基準」を参照し、防除する。

3 ハダニ類

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①直近の巡回調査では、東北信地域で広く寄生がみられ、一部のほ場では寄生密度が増加した。

②気象要因（＋）

向こう1か月の気象予報では、気温は高いと予想されており、活動は活発になると推測される。

4 シンクイムシ類（モモシンクイガ）

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

中野市（北信農業農村支援センター）のフェロモントラップによる調査では、誘殺頭数は平年と比べ多かった。

(3) 防除上の留意点

「県防除基準」を参照し、定期的に防除する。

5 モモハモグリガ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①直近の巡回調査では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

②須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年と比べ少なかった。

(3) 防除上の留意点

①第4世代成虫の発生始期（8月中下旬頃）に、「県防除基準」を参照し、防除する。

なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

②多発ほ場では、9月にも農薬登録のある殺虫剤を散布する。

6 リンゴコカクモンハマキ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、幼虫による新梢及び果実への被害はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

「県防除基準」を参照し、防除する。

VIII ぶどう

1 べと病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、降雨前あるいは降雨後、すみやかに防除する。

②薬剤耐性菌出現を防止するため、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。

③薬剤の散布むらが生じないように新梢管理を行う。

2 さび病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、防除する。

②べと病防除に用いるボルドー剤の散布で、発病が軽減される。

3 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①直近の巡回調査では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

②須坂市（果樹試験場）の粘着トラップによる捕捉頭数は、平年並であった。

(3) 防除上の留意点

「県防除基準」を参照し、防除する。

IX かき

1 うどんこ病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

「県防除基準」を参照し、防除する。

2 炭疽病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、防除する。

②降雨前に重点的に防除する。

3 円星落葉病

(1) 予報の内容 発生量：**やや少ない** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

南信農業試験場での孢子飛散量は平年と比べて少なかった。

(3) 防除上の留意点

「県防除基準」を参照し、防除する。

4 カキクダアザミウマ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

「県防除基準」を参照し、防除する。

5 カキノヘタムシガ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

「県防除基準」を参照し、防除する。

6 ハマキムシ類

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

「県防除基準」を参照し、防除する。

7 フジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容 発生量：**やや少ない** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①直近の巡回調査では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

②高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年と比べ少なかった。

(3) 防除上の留意点

「県防除基準」を参照し、防除する。

X 野 菜

1 トマト疫病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、平年と同様に発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

①多湿条件で多発しやすいので、適正なかん水や換気等に努め、排水を良好にする。

②「県防除基準」を参照し、防除する。

③薬剤耐性菌出現を防止するため、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。

2 トマト灰色かび病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①直近の巡回調査では、中信地域（ジュース用、露地栽培）で発生がみられ、平年と比べやや多かった。

②気象要因

向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

①施設栽培では多湿条件で多発しやすいので、過度の密植は避け、適正なかん水や換気等によって、施設内の湿度低下に努める。

②開花後の花卉から発病しやすいので、咲き終わった花卉の除去に努める。

③「県防除基準」を参照し、防除する。

④薬剤耐性菌出現を防止するため、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。

3 トマト輪紋病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、北信地域（施設栽培）で発生がみられたが、一般的に発生は平年並であった。

(3) 防除上の留意点

- ①露地栽培では、気温が高く、降水量が多いと多発する。
- ②被害茎葉が次作の伝染源となるので、ほ場外で適切に処分する。
- ③「県防除基準」を参照し、防除する。

4 キュウリ斑点細菌病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、平年と同様に発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

- ①発病後の防除は困難であるので、「県防除基準」を参照し、予防防除を基本とする。
- ②被害の甚だしい葉及び果実は除去する。

5 キュウリべと病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

- ①下葉で発病の著しいものは摘葉する。
- ②降雨や灌水により、地表面からの水のはね上がりによって伝染することが多いので、ポリマルチ、敷わら等によって水滴のはね上りを防ぐ。
- ③発病を認めたら直ちに、「県防除基準」を参照し、防除する。

6 キュウリうどんこ病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、一般的に発生は平年と比べやや少なかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

- ①発病を認めたら直ちに、「県防除基準」を参照し、7～10日間隔で防除する。その後は発生状況に応じて適宜に防除する。
- ②多発生してからでは防除困難となるので、発病初期からの防除に努める。

7 キュウリ炭疽病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

- ①例年、露地栽培後半での発生が多い。
- ②多発葉は早めに除去する。
- ③窒素過剰は発病を助長するので、施肥量に注意する。

8 キュウリ褐斑病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、平年と同様に発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

- ①本病は、露地栽培後半の高温多雨条件で発生が多い。
- ②発病を認めたら直ちに、「県防除基準」を参照し、防除する。
- ③ハウス栽培では高温多湿を防ぎ、多発葉は除去する。
- ④窒素過剰は発病を助長するので、施肥量に注意する。

9 果菜類（きゅうり、トマト等）のウイルス性病害

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ①直近の巡回調査では、東信地域のトマト（露地栽培）で発生がみられた。
- ②黄色粘着トラップによる調査では、アブラムシ類の誘殺頭数が平年と比べ多い地点（小諸市、塩尻市、長野市など）があった。
- ③青色粘着トラップによる調査では、アザミウマ類の誘殺頭数が平年と比べ多い地点（上田市、塩尻市）があった。

(3) 防除上の留意点

- ①発病株は直ちに除去して処分する。
- ②感染植物を吸汁したアザミウマ類及びアブラムシ類の吸汁により、健全な植物に伝染する。（アザミウマ類及びアブラムシ類の防除については、次項10及び11を参照。）
- ③汁液伝染する恐れがあるので、畝ごとに使用するハサミを替えるなどし、汚染されたハサミにより、ほ場全体に拡がらないように注意する。

10 果菜類（きゅうり、トマト等）のアザミウマ類

(1) 予報の内容 発生量：やや多い 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①直近の巡回調査では、東信地域のトマト（露地栽培）、いちご（施設栽培）、北信地域のきゅうり（施設栽培、露地栽培）で寄生がみられ、平年と比べ発生がやや多かった。

②青色粘着トラップによる調査では、3地点中2地点（上田市、塩尻市）で平年と比べ誘殺頭数が多かった。

③気象要因（＋）

向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、防除する。

②施設栽培で、日中の気温上昇により側窓を解放する場合は、防虫ネットを設置するなどし、飛び込みを防ぐ。

11 果菜類（きゅうり、トマト等）のアブラムシ類

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多い 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①黄色粘着トラップによる調査では、5地点中3地点（小諸市、塩尻市宗賀、長野市）で平年と比べ多かった。

②気象要因（＋）

向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

①「防除基準」を参照し、防除する。

②露地栽培では、高温となる夏は寄生が減少する傾向があるが、施設栽培では1年中発生する。

③施設栽培で、日中の気温上昇により側窓を解放する場合は、防虫ネットを設置するなどにより飛び込みを防ぐ。

12 アブラナ科野菜の黒斑細菌病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①直近の巡回調査では、北信地域のキャベツで発生がみられた。

②気象要因

向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

①降雨が多いと多発する。

②育苗時の発生に注意し、発病苗とその周辺の苗は定植に用いない。

③発生ほ場の被害茎葉は、土壌中の病原菌密度が増加するので、すき込まない。

④「県防除基準」を参照し、防除する。

13 アブラナ科野菜の軟腐病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、中信地域のキャベツの一部のほ場で発生がみられたが、発生量は平年並であった。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、防除する。

②例年、この時期から発生が増加し、高温多湿条件で多発する。

14 アブラナ科野菜の黒腐病

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多い 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、北信地域のキャベツで発生がみられ、発生量は平年と比べやや多かった。

(3) 防除上の留意点

①予防散布を基本として、「県防除基準」を参照し、防除する。

②過湿、過乾、高温期、肥料切れの場合に発生しやすい。

③雷雨などの強い降雨により作物が傷むと、細菌性病害が発生しやすくなる。

15 アブラナ科野菜のコナガ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①直近の巡回調査では、東信地域のキャベツ、ブロッコリーの一部ほ場で寄生がみられたが、発生量は平年並であった。

②フェロモントラップによる誘殺頭数は、6地点中2地点（原村、朝日村）で平年と比べて多かったが、その他4地点（小諸市、上田市、塩尻市、長野市）では少なかった。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、防除する。

②薬剤感受性の低下を起しやすいため、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。

16 ハクサイピシウム腐敗病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

①高温期は軟腐病を併発しやすいので、軟腐病の防除も行う。

②「県防除基準」を参照し、防除する。

③降雨が多いと多発する。

17 ハクサイベト病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、東信地域の一部のほ場で発生がみられたが、発生量は平年並であった。

(3) 防除上の留意点

- ①本病に感受性の高い品種の作付けはさける。
- ②定植直後から定期的に予防散布を実施する。
- ③「県防除基準」を参照し、防除する。
- ④低温多湿条件のときに発生が多い。

18 レタスすそ枯病

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多い 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①直近の巡回調査では、東信地域で発生がみられ、発生ほ場は平年と比べやや多かった。
- ②近年、発生が増加傾向にある。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②結球始期に重点的に防除する。

19 レタスベト病・菌核病・灰色かび病

(1) 予報の内容 発生量：やや少ない 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①直の巡回調査では、発生はみられなかった。
- ②いずれの病害も、低温で降雨が続く時に発生が多い。
- ③気象要因

向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②いずれの病害も、結球始期に重点的に防除する。

20 レタス斑点細菌病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①直近の巡回調査では、東信地域で発生がみられ、発病株率は平年と比べやや高かった。
- ②気象要因

向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②降雨が多いと多発する。

21 レタス軟腐病・腐敗病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、降雨前あるいは降雨後すみやかに防除を行う。
- ②常発地・多発地では、排水対策を行う。
- ③高温多雨条件で多発する。

22 アスパラガス茎枯病

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多い 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、東信地域（露地栽培）、南信地域（雨よけ栽培）の一部ほ場、中信地域（露地栽培）、北信地域（雨よけ栽培、露地栽培）で発生がみられ、発生量は平年に比べやや多かった。

(3) 防除上の留意点

- ①雨除けをすると、茎枯病の予防効果が高い。
- ②降雨時の泥はね等により感染するので、土寄せや敷きワラ等で泥はねを防ぐ。
- ③病茎は早期に刈り取り、ほ場外へ持ち出し、穴を掘って埋めるなど適切に処分する。
- ④降雨が多いと多発する。

23 アスパラガス斑点病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

- ①降雨が多いと多発する。
- ②通風をよくするために立茎数を制限し、徒長倒伏しないよう上部を刈取る。
- ③「県防除基準」を参照し、防除する。
- ④定期的な防除を実施し、散布間隔が大きくあきすぎないようにする。
- ⑤同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。

24 ねぎの黒斑病・葉枯病

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多い 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、南信地域、中信地域で黒斑病の発生がみられ、発生量は平年と比べやや多かった。

(3) 防除上の留意点

- ①2次感染源となるので、被害葉をほ場内に放置しない。
- ②「県防除基準」を参照し、防除する。
- ③降水量が多いと多発する。

25 ねぎのべと病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

- ①ほ場の排水対策を行う。
- ②「県防除基準」を参照し、防除する。
- ③降水量が多いと多発する。

26 オオタバコガ（野菜、花き全般）

(1) 予報の内容 発生量：**やや多い** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①直近の巡回調査では、東信地域のトマト（露地栽培）、中信地域のジュース用トマト（露地栽培）で果実の食入被害がみられ、特に中信地域の被害株率は平年と比べ高かった。

②各地に設置されたフェロモントラップによる調査では、平年と比べ誘殺頭数が多い地域（佐久穂町、小諸市、御代田町、茅野市、松川村、阿南町、塩尻市、須坂市、中野市など）があった。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②結球野菜では、結球始期に重点的に防除する。
- ③薬剤感受性の低下を起こしやすいので、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。

27 ヨトウガ類（野菜、花き全般）

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

直近の巡回調査では、寄生は確認されなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

「県防除基準」を参照し、防除する。

28 ハモグリバエ類（野菜、花き全般）

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①直近の巡回調査では、南信地域、中信地域のねぎで被害がみられ、発生量は平年と比べやや多かった。

②気象要因（＋）

向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ①苗床での防除を徹底する。
- ②育苗施設では粘着トラップを設置し、成虫を捕殺する。
- ③「県防除基準」を参照し、防除する。
- ④収穫後は、残さの処分を徹底する。

29 アブラムシ類（野菜、花き全般）

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①黄色粘着トラップによる調査では、5地点中3地点（小諸市、塩尻市宗賀、長野市）で平年と比べ多かった。

②気象要因（＋）

向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

早期発見に努め、多発する前に「県防除基準」を参照し、防除する。

30 アザミウマ類（野菜、花き全般）

(1) 予報の内容 発生量：**やや多い** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①直近の巡回調査では、東信地域のトマト（露地栽培）、アスパラガス（露地栽培）、いちご（施設栽培）、南信地域のアスパラガス（雨よけ栽培）の一部ほ場、ねぎ、中信地域のアスパラガス（雨よけ栽培、露地栽培）、ねぎ、北信地域のきゅうり（施設栽培、露地栽培）、アスパラガス（露地栽培）で寄生がみられ、発生量は平年と比べやや多かった。

②青色粘着トラップによる調査では、3地点中2地点（上田市、塩尻市）で平年と比べ誘殺頭数が多かった。

③気象要因（＋）

向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ①育苗期又は定植時の防除が有効である。
- ②早期発見に努め、多発する前に「県防除基準」を参照し、防除する。
- ③アザミウマの種類によって薬剤に対する感受性が異なるので、防除を実施後に効果を確認し、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。
- ④ほ場周辺の雑草に寄生し、野菜畑に飛び込む場合があるので、雑草防除等のほ場管理を行う。

31 ハダニ類（野菜、花き全般）

（1）予報の内容 発生量：やや多い 発生時期：平年並

（2）予報の根拠

①直近の巡回調査では、東信地域のトマト（露地栽培）、中信地域のアスパラガス（露地栽培）、北信地域のきゅうり（施設栽培）、アスパラガス（雨よけ栽培）で寄生がみられた。

全般的に発生が多く、特に北信地域のきゅうり、アスパラガスの寄生株率が高かった。

②例年、盛夏期以降に多発する。

③気要要因（＋）

向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されている。

（3）防除上の留意点

①早期発見に努め、多発する前に「県防除基準」を参照し、防除する。

②同一系統・同一薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

③施設などで乾燥状態が続くと多発しやすい。